

刑事資料
平成26年

刑法各論〔上〕

目次

刑法〔上〕

第1章 公務の執行を妨害する罪

1 公務執行妨害罪、職務強要罪

- 〔事例〕 1 指定自動車教習所の技能検定員は、公務執行妨害罪の客体となるか……………1
- 2 放置車両の確認等の事務に従事中の駐車監視員を殴打した者の刑責……………4
- 3 交番で事務引継ぎを終えて帰署しようとしたところ、来所者から暴行を受けた場合における公務執行妨害罪の成否……………7
- 4 走行中の護送車の周辺をオートバイでジグザグ走行して、運転者に急ブレーキを掛けさせるなどした者の刑責……………9
- 5 無人の警ら用無線自動車の後部バンパーを思い切り蹴り上げた場合における公務執行妨害罪の成否……………12
- 6 所持品検査を行った警察官に対して暴行を加えた場合の公務執行妨害罪の成否……………16
- 7 職務質問を継続するため自分の自転車に手を掛けて停止を求めた警察官の行為を暴行に当たると誤信し、当該警察官に暴行を加えた場合における公務執行妨害罪の成否……………18
- 8 公園内の屋台を取り締まらせるため、交通取締りに従事中の警察官に暴行を加えた者の刑責……………21

9 第三者を介して、違法駐車車両の取締りをやめるよ う警察官に強要した者の刑責	23
第2章 逃走の罪	
1 逃走罪	
〔事例〕 1 勾留中の被疑者が護送係員の隙を見て手錠を外して 護送用車両から逃走したものの、直ちに護送係員から 追跡を受けて逮捕された場合における刑責	27
2 加重逃走罪	
〔事例〕 1 緊急逮捕されて引致のため連行途中の被疑者が、連 行警察官に体当たりをして逃走しようとした場合にお ける加重逃走未遂罪の成否	30
2 引当り捜査中に捜査員の隙をみていわゆる腰縄を切 断して逃走した勾留中の被疑者の刑責	32
3 逮捕され勾留中の被疑者が取調べ官の隙をうかがっ て逃走し、これを阻止しようとした他の警察官に暴行 を加えた後に取り押さえられた場合の刑責	35
4 通常逮捕された被疑者が留置施設内において、留置 施設の鍵を奪って逃走するため、警察官に暴行を加え たものの、取り押さえられて逃走できなかった場合の 刑責	38
3 逃走援助罪、逃走援助暴行罪	
〔事例〕 1 現行犯逮捕された被疑者のうちの一人が、警察官に 暴行を加えて共犯者を逃走させた場合の刑責	40
第3章 犯人蔵匿及び証拠隠滅の罪	
1 犯人蔵匿・隠避罪	

〔事例〕 1 不動産会社に勤務する者が、振り込め詐欺事件の犯 人に頼まれて自己が仲介するアパート居室の入居手続 を行い、同人らを当該居室に居住させた場合における 刑責	44
2 逃走した犯人と行動を共にし、偽名で一般のホテル に同宿した者の刑責	46
3 指名手配中の被疑者に対し、自己の国民健康保険被 保険者証を渡し、治療を受けさせた者の刑責	49
4 駅ホームで発生した傷害事件につき、傷害犯人を電 車内に引き込んで逃走させた者の刑責	52
5 自己を殺害するように依頼した相手方からナイフで 刺されたことに関して、警察官から事情聴取された際 に強盗に刺されたと虚偽の申立てをした者の刑責	55
6 警察官に虚偽の供述をしてその旨を参考人供述調書 に記載させた者の刑責	58
7 逮捕されている者の身代わりとして、虚偽の内容を 申告した者の刑責	60
8 強盗事件の被疑者の発見・逮捕を妨げるため、その 所在につき、警察官に対して虚偽の供述をした者の刑 責	63
9 駐車違反をした夫の身代わりに出頭し、反則切符の 供述書欄に自己の署名・指印を行った者の刑責	65
10 駐車違反者が誰であるかの明確な認識のないまま身 代わり出頭させた者と依頼者を違反者と誤信して身代 わりになった者の刑責	68
11 犯人隠避行為をした時点で既に犯人が特定されてお り、かつ、犯人を逮捕した場合における犯人隠避罪の	

成否	71
12 不起訴処分を受けた者を蔵匿・隠避した者の刑責	75
13 犯人が隠避行為をした時点で、既に本犯が死亡していた場合における犯人隠避罪の成否	78
14 養親を教唆し、事件当日のアリバイにつき、警察官に対して虚偽の供述をさせたひったくり犯人の刑責	81
2 証拠隠滅罪	
〔事例〕 1 捜査を妨害する目的で、面識のない傷害犯人が遺留したナイフを持ち去って川に投げ捨てた場合における証拠隠滅罪の成否	83
2 犯人に対して事件の証拠に係る隠蔽工作を提案した者が、その後、犯人に依頼され、それを実行した場合の刑責	85
3 証人威迫罪	
〔事例〕 1 窃盜被疑者として逮捕・勾留され、取調べを受けている愛人の刑責を免れさせる目的で、共犯者に口止めのための威迫行為をした者の刑責	89
2 電話等による間接的方法を用いた場合の証人威迫罪の成否	92
3 他人の恐喝未遂事件の目撃者に電話で面会を要求した者の刑責	94
4 再審請求目的で略式命令が確定した事件の参考人を脅迫して虚偽の上申書を書かせようとした者の刑責	98
5 懲役刑に服した事件の被害者に対してわび状の作成を強要する行為と証人威迫罪の成否	100
6 不起訴処分になった事件の被害者に対し、脅迫を加えて現金を要求する行為と証人威迫罪の成否	102

第4章 放火及び失火の罪

1 現住建造物等放火罪

〔事例〕 1 公園で暖をとるために段ボール等を集めて火をつけたところ、炎が大きく燃え上がり、火が隣接するアパートに燃え移ったが、これを現認しながらその場から立ち去った者の刑責	105
2 犯人が放火行為に着手した後、被害者の不手際が重なって火の勢いが強まり、現住建造物を焼損した場合の当該犯人の現住建造物等放火既遂罪の成否	107
3 鉄筋コンクリート造10階建マンションの1階にある無人の医院の一室に放火し、壁・天井等を焼損させた者の刑責	110
4 殺意を持って路上生活者が居住しているビニールシート葺き簡易建物に放火し、同人を焼死させた者の刑責	113
5 鉄筋コンクリート構造の耐火性集合住宅の空き室に放火し、同室内の床等を焼損した場合における現住建造物等放火罪の成否	116
6 パソコンを使用した時限式発火装置によりマンションの一室を放火しようとしたが、その目的を遂げることができなかった者の刑責	119

2 非現住建造物等放火罪、自己所有非現住建造物等放火罪

〔事例〕 1 屋根と柱木の骨組みだけの未完成の建物を焼損するために、媒介物に火をつけた者の刑責	121
2 夜間、人がいることを知らずに、建築中の鉄筋コンクリート製マンションに放火した者の刑責	124
3 火災保険金をだまし取る目的を有する家屋所有者か	

ら放火を依頼され、当該家屋に放火した者の刑責	128
3 建造物等以外放火罪、自己所有建造物等以外放火罪	
〔事例〕 1 建造物等以外の物に延焼するおそれがあるにすぎない場合を公共の危険の発生として捉えて建造物等以外放火罪を適用することの可否	130
4 放火予備罪	
〔事例〕 1 放火の予備行為をした者が、途中で翻意して放火の実行行為を中止した場合、放火予備罪に中止未遂規定を類推適用することの可否	132
2 放火の実行を唆し、正犯者がガソリンを持って被害者宅に赴いたものの、放火行為に着手できなかった場合における教唆者の刑責	135
3 放火殺人の目的で営業中の店内にガソリン入りの容器を置いたが、マッチを手にした段階で取り押さえられた場合における放火罪の着手時期	138
5 激発物破裂罪、過失激発物破裂罪	
〔事例〕 1 カセットコンロ用ガスボンベを破裂させて、室内に設置されていた書棚を損壊した者の刑責	141
6 業務上失火・業務上過失激発物破裂・重過失失火・重過失激発物破裂罪	
〔事例〕 1 タンクローリー車の運転手が過失により同車両を爆発させた結果、道路に隣接する一般住宅に火が燃え移り、家人を焼死させた場合の刑責	144
7 ガス漏出等・同致死傷罪	
〔事例〕 1 狂言自殺を図るため、居室内にプロパンガスを充満させ、電灯をつけた際に発生した火花がガスに引火して爆発し、第三者に傷害を負わせた者の刑責	148

第5章 往来を妨害する罪

1 往来妨害・同致死傷罪

〔事例〕 1 道路上にフラワーボックスを置いて、通行の妨害を生じさせた者の刑責	152
2 道路面と平行になるようにロープを張り渡して走行する自転車を接触・転倒させ、運転者に傷害を負わせた者の刑責	155
2 電汽車往来危険罪、艦船往来危険罪	
〔事例〕 1 鉄道踏切から線路上に放置自転車を投棄した者らの刑責	157
3 過失往来危険罪、業務上過失往来危険罪	
〔事例〕 1 踏切内で脱輪し、危険防止の措置を講じたが、結果的に電車と衝突した場合における車両運転者の刑責	161

第6章 住居を侵す罪

1 住居等侵入・不退去罪

〔事例〕 1 日本語を理解できない者が「関係者以外立入禁止」などと表示されたマンション内に正当な理由なく侵入した場合における住居侵入罪の成否	165
2 米軍施設の建造物内に垂れ幕を持って立ち入った者の刑責	167
3 従業員の隙を見て、カプセルホテルの空き室に入り込み、宿泊しようとした者の刑責	169
4 屋根が未完成の建築中のビル内に侵入した場合の建造物侵入罪の成否	171
5 公営野球場外野スタンドのスコアボード屋上に上がって応援した場合における建造物侵入罪の成否	174

6	1階が店舗、2階が住居として使用されている店舗兼住宅の1階店舗部分に侵入した者の刑責	177
7	クラブハウスがある広大な敷地内の一角のテニスコート内に金網フェンスを乗り越えて侵入した場合における建造物侵入罪の成否	179
8	ゴルフ場のコースに無断で立ち入った場合における建造物侵入罪の成否	181
9	既に一部建造物の構造を有している建設中のマンションの敷地内に鉄板フェンスを乗り越えて侵入した場合の建造物侵入罪の成否	185
10	監視する目的で、夜間、1週間にわたって断続的に、調査対象者宅に隣接する小学校の校庭に侵入した興信所調査員の刑責	187
11	アパートの空き部屋に侵入した場合、住居侵入罪・邸宅侵入罪のいずれの刑責とすべきか	190
12	女子寮の室内をのぞき見するため看護師寮のブロック塀によじ登った者の刑責	192
13	マンションの外壁によじ登った者の刑責	193
14	東京タワーによじ登った者の刑責	195
15	工事の際には必ず許可を得てから立ち入るように申し入れられていたにもかかわらず、自己の仕事の都合から許可なく立ち入った場合における建造物侵入罪の成否	198
16	離婚調停中の夫が妻を連れ戻すため、ナイフを所持して別居生活をしている妻の家に侵入した場合の住居侵入罪の成否	201
17	いわゆるスーパー銭湯の利用客が、入場後、不正に	

	入手した岩盤浴専用の浴衣を着用し、岩盤浴施設に立ち入って不正利用した場合の刑責	203
18	承諾を得て建物内に立ち入った者が、のぞきの目的で女性用トイレに侵入した場合の建造物侵入罪の成否	207
19	窃盗の目的で、担当区域外の場所に立ち入った場合における建造物侵入罪の成否	209
20	いわゆる訪問盗の目的で、家人の承諾を得て住居に入った場合における住居侵入罪の成否	212
21	弁護士の身分を仮装して立会人なしの接見を行う目的で、東京拘置所に公然と立ち入った者の刑責	214

第7章 秘密を侵す罪

1 秘密漏示罪

- 〔事例〕 1 医師が保険会社の照会に応じ、死亡した患者の病歴等を回答した場合における秘密漏示罪の成否……………218
- 2 かつて顧問弁護士をしていた会社が当時多額の不良債権を抱えていた事実を、知り合いの暴力団組長に漏らした弁護士の刑責……………220
- 3 医師が、治療の目的で患者から採取した尿につき、覚醒剤の陽性反応が検出された旨を捜査機関に通報した場合における秘密漏示罪の成否……………223

第8章 飲料水に関する罪

1 浄水毒物混入罪

- 〔事例〕 1 飲料水のポリタンクにクレゾール石けん液を混入した場合における浄水毒物等混入罪の成否……………227
- 2 水道毒物混入・同致死罪

〔事例〕 1	マンションの居住者に飲料水を供給するために設置されている給水槽内に農薬を投入した者の刑責	229
2	近隣の居住者が水道代わりに利用する井戸に殺虫剤を投入した者の刑責	232
3	水道損壊罪	
〔事例〕 1	自室専用の水道管に穴を空けた場合の水道損壊罪の成否	234
第9章 通貨偽造の罪		
1	通貨偽(変)造・同行使罪	
〔事例〕 1	亮春の対価の支払に使う目的で、1万円札を偽造し、情を知らない相手方にこれを交付した者の刑責	237
2	1万円札の片面をカラーコピーし、これを四つ折りにしてのり付けした上、ガソリンスタンドでガソリン代金の支払に充てた者の刑責	239
3	偽造した旧1万円札を真正な1万円札と交換する目的で、共犯者名義の預金口座に入金した者の刑責	242
2	偽(変)造通貨取得罪	
〔事例〕 1	偽造した外国通貨であることを知りながらこれを譲り受け、後日、両替しようとしたものこれを遂げることができなかった者の刑責	244
第10章 文書偽造の罪		
1	有(無)印公文書偽(変)造・同行使罪	
〔事例〕 1	運転免許試験の技能試験を免れるため、指定自動車教習所発行の卒業検定合格証明書が併存する卒業証明書を偽造した者の刑責	248

2	国立大学法人の銀行口座から不正に現金を引き出すため、同法人の出納印を冒用し、銀行預金払戻請求書を作成した経理担当者の刑責	251
3	虚偽の営業実体等を装うため、パソコンで税務署の「収受日付印」を作成して、所得税の確定申告書用紙等に印刷した者の刑責	254
4	区長名を冒用して架空の契約書を作成し、融資申込先に提出した者の刑責	257
5	時間制限駐車区間に駐車した際、他人が偽造したパーキング・チケットを自車のダッシュボード上に置いた者の刑責	259
6	実在しない公務所(公務員)を作成名義人とする文書を作成し、行使した場合における有印公文書偽造・同行使罪の成否	262
7	退職した自動車検査員の氏名等を冒用し、自動車の保安基準適合証を作成した指定自動車整備事業者の刑責	264
8	自己の自動車運転免許証の裏面の備考欄に虚偽の住所を記載した者の刑責	266
9	就職に当たり、原付免許保有者が他人の免許証を利用し自己名義の普通免許証の外観を備えたコピーを作成して、会社に提出した場合の刑責	269
10	都立病院の医師から交付された処方箋をカラーコピーした上、薬局に提出して向精神薬を入手しようとした者の刑責	271
11	行使の目的で、失効した駐車禁止除外指定車標章の有効期限部分に数字が記載された紙片を置き、これに	

ビニールシートをかぶせて固定した者の刑責	274
12 外国人が自国内において日本人名義の旅券を偽造し、日本人に成りすまして我が国に上陸した場合の刑責	277
13 窃取した自動車に偽造した自動車検査証を備え付けて運行の用に供した場合における偽造公文書行使罪の成否	278
14 偽造自動車運転免許証を警察官に提示したものの、その有効期限が経過していた場合における偽造公文書行使罪の成否	281
15 水道管工事の請負人が、下請人に対し、偽造の道路使用許可証を真正な文書として交付した場合における偽造有印公文書行使罪の成否	284
16 詐欺目的で郵送した偽造公文書が名宛人に到達しなかった場合、偽造有印公文書行使罪は既遂か未遂か	287
2 (電磁的)公正証書原本不実記載(録)・免状等不実記載・同行使(供)用罪	
〔事例〕1 排気量の大きいバイクを、排気量の小さいものとして申請してナンバープレートの交付を受けるなどした者の刑責	289
2 虚偽の養子縁組届を区役所に提出して戸籍簿に記載させた場合における公正証書原本不実記載・同行使罪の成否	293
3 所有者等の実態を隠蔽するため、応諾した者の名義で、自動車登録ファイルへの新規登録を行った者らの刑責	296
4 実子に日本国籍を取得させるため、日本人男性に虚	

偽の認知届を区役所に提出させて戸籍簿に記載させた上、法務局に国籍取得の届出をした者の刑責	299
5 他人に成りすまして、同人の住民登録を異動させようとした者の刑責	301
6 強制執行を免れるため、自己所有の土地について、売買を原因として息子に所有権が移転した旨の内容虚偽の登記申請をし、土地登記簿の磁気ディスクに記録させた者の刑責	303
7 他人に成りすまして自動車運転免許証の切替申請を行ったが、交付される直前に発覚した場合における申請者の刑責	306
3 有(無)印私文書偽(変)造・同行使罪	
〔事例〕1 同棲中の女性がたんす内に保管していた同女名義の土地権利証等を無断で持ち出した上、委任状等を偽造して同女を物上保証人とする旨の虚偽事実を申し向けて借金をした者の刑責	310
2 自動車保管場所証明書の交付を受けるため、賃貸駐車場の所有者に保管場所使用承諾証明書に署名をもらうなどして、警察署長に交付申請をした者の刑責	313
3 クレジットカードの名義人に成りすましてクレジットカード売上票に名義人の氏名を署名した者の刑責	316
4 承諾を得ることなく、はがきの表に差出人として知人の氏名を記載して郵送した者の刑責	319
5 架空人を遺失者とする遺失届出書を作成し警察官に提出した者の刑責	323
6 架空人を借受人とする「公衆接遇弁償費借受願書兼借受書」を作成し警察官に提出した者の刑責	326

7 就業先の金を横領した集金人が、犯行を隠蔽しようとひたたくり被害に遭った旨の虚構の届出をなし、警察官に内容虚偽の被害届を代書させた場合の刑責	328
8 就職が内定していた者が、本名が発覚するのを免れる目的で、双子の弟に成りすまして微罪処分手続書の申述書欄を作成したところ、それを見た父親が、当該事実を知らずながら同手続書の請書欄の被疑者名を弟の名とした上、自己の氏名を自署し、押印した場合における双方の刑責	331
9 あらかじめ名義人の承諾を得た上で、交通反則切符の交通事件原票の供述書欄に他人の氏名を署名した者の刑責	333
10 追跡捜査を逃れるため、虚偽の氏名等を記載した履歴書に自己の顔写真を貼付して就職先の会社に提出した者の刑責	337
11 金融会社の無人コーナーに設置されている自動契約受付機で、名義人の承諾があったものと誤信して、同人名義でローンカード交付申込書を作成して申込みをした者の刑責	340
12 詐欺の手段として偽の工事注文書の写しを金融機関にファクシミリ送信して、担当者に見せた場合における有印私文書偽造罪の既遂時期	343
4 虚偽診断書等作成・同行使罪	
〔事例〕 1 依頼により死亡診断書に虚偽の記載をした医師及び依頼者の刑責	346

第11章 有価証券偽造の罪

1 有価証券偽(変)造・有価証券虚偽記入・同行使罪

〔事例〕 1 行使の目的で、有効期間が経過したバスの定期乗車券の有効期間を改ざんした者の刑責	350
2 銀行との当座勘定取引契約を解約した後に、その銀行の統一約束手形用紙を悪用して同銀行を支払場所とする約束手形を自己名義で振り出し、これを支払手段として商品を購入した者の刑責	352
3 約束手形の振出人欄の横に勝手に他人の氏名等を記載した者の刑責	355
4 窃取した約束手形用紙に他人のゴム印等を押印して約束手形を完成させ、同時に裏書部分に他人の署名を冒用した者の刑責	358
5 ファミリーレストラン発行の無料食事券は有価証券偽造罪の客体に当たるか	360
6 収入印紙を偽造して金券ショップに売却した場合における有価証券偽造・同行使罪の成否	362
7 いわゆるスーパー銭湯の「入浴回数券」は有価証券偽造罪の客体に当たるか	365
8 いわゆるゴルフ会員権証書をほしのままに偽造した上、これを会員に交付した場合の刑責	367
9 ゴルフ練習場の「練習ボール引換券」は有価証券偽造罪の客体に当たるか	370
10 借金の相手方に返済期限を猶予させる目的で、外れ宝くじ券の番号を当選番号に改ざんした者の刑責	372
11 CD購入者に特典として付与される「握手券」は有価証券偽造罪の客体に当たるか	375

12 偽造手形とは知らずにその交付を受けた者が、その後、偽造手形であることを知って、これを真正手形として他に裏書譲渡した場合の偽造有価証券行使罪の成否	378
13 偽造された商品券をそれとは知らずに取得した者が、その後、偽造であることを知って使用した場合の刑責	380
14 偽造に係る日本国内のバス会社発行の回数乗車券を外国から航空機で日本国内に持ち込んだものの、税関職員に発見された場合における刑責	383
第12章 支払用カード電磁的記録に関する罪	
1 支払用カード電磁的記録不正作出・同供用罪、不正電磁的記録カード譲渡し・貸渡し・輸入罪	
〔事例〕 1 偽造キャッシュカードを作るためのコンピュータシステムを開発して、その器械一式を偽造カードグループに売却した者の刑責	386
2 不正電磁的記録カード所持罪	
〔事例〕 1 刑法第163条の3が規定する「不正電磁的記録カード」の意義	390
2 使用不能な偽造クレジットカードを使用目的で所持していた場合における不正電磁的記録カード所持罪の成否	393
3 種類の異なる偽造カードを所持していた場合の罪数	395
4 他人から交付を受けた偽造キャッシュカードを使用してATM機から現金を引き出した者の刑責	398
3 支払用カード電磁的記録情報取得・提供罪、同保管罪、支払	

用カード電磁的記録不正作出器械原料準備罪	
〔事例〕 1 他人のクレジットカードを一時的に持ち出し、スキミングによりその磁気情報を盗み取って偽造グループに渡すとともに、当該クレジットカードを元の場所に戻した者の刑責	401
2 偽造クレジットカードを作出するためのデータをパーソナルコンピュータ内に保管していた者の刑責	404
3 支払用カード電磁的記録不正作出準備罪における「器械」の範囲	406

第13章 印章偽造の罪

1 公印偽造・同使用罪、公印不正使用罪

〔事例〕 1 実在する捜査員の氏名を冒用して名刺を作成した上、これを通行人等に提示して聞き込み捜査のまねごとをした者の刑責	409
2 自己の氏名に警察官の肩書を付けて名刺を作成した者が、その名刺を入れた財布を遺失したため、警察官に成りすまして当該財布を受領した場合の刑責	411
3 タクシー運転手に警察官の官用名刺を示して信用させ、乗車料金の支払を免れた者の刑責	415

2 公記号偽造・同使用罪、公記号不正使用罪

〔事例〕 1 50ccバイクに偽造したナンバープレートを取り付けて運転した者の刑責	417
---	-----

3 私印偽造・同使用罪、私印不正使用罪

〔事例〕 1 他人の氏名を差出人として記載した封筒に、銀行の融資問題を内容とする誹謗文書を入れて企業役員に送り付けた者の刑責	421
--	-----

2 他人名義の名刺を勝手に作成して、これを不正に使用した者の刑責	425
第14章 偽証の罪	
1 偽証罪	
〔事例〕 1 証人が民事裁判において虚偽の陳述をした直後に訂正した場合における偽証罪の成否	428
第15章 虚偽告訴の罪	
1 虚偽告訴罪	
〔事例〕 1 被告人の同意を得た上で、虚偽の犯罪事実で警察に告訴状を提出した場合における虚偽告訴罪の成否	431
2 女性の転居先を知る目的で、同女を犯人とした虚偽の窃盗被害を警察署に届け出た者の刑責	433
3 単に警察の取調べを受けさせる目的で、他人に係る虚偽の犯罪事実を申告して被害届を提出した者の刑責	436
第16章 わいせつ、姦淫及び重婚の罪	
1 公然わいせつ罪	
〔事例〕 1 乗客のいる深夜バス内で手淫を行い女性のスカートに精液を付着させた者の刑責	439
2 同伴喫茶に来店中のアベックが行っている性交行為の姿態をのぞき見させる目的で、特殊カメラをひそかに設置して多数の者が見ているモニターテレビに映し出させた者の刑責	441
3 会員限定の貸切りバスの車内において性行為をした者と、バスの手配等を行ったハブニングバー経営者の	

刑責	446
2 わいせつ文書等（電磁的記録）頒布・陳列罪、わいせつ文書等有償頒布目的所持・保管罪	
〔事例〕 1 ダイヤルQ ² 番組を開設し、同番組の利用者に対し録音再生機により再生したわいせつな音声を聞かせた者の刑責	449
2 わいせつな画像データが入った販売用コンパクトディスクを作成するため、パソコン内のハードディスクに保存されている当該画像データのバックアップ用のDVDを所持していた者の刑責	451
3 強制わいせつ罪	
〔事例〕 1 無理やり自己の陰茎を触らせるため、女性の腕を引っ張った者の刑責	454
2 電車内で自己の陰茎を露出して、女性の手に強く押し付けた者の刑責	456
3 駐車中の自動車に乗車しようとした女性の腕をつかんで引き寄せ、同女に向けて射精した者の刑責	459
4 女性が寝込んでいると誤信して同女の胸を弄ぶ行為をした場合、強制わいせつ罪・準強制わいせつ罪のいずれの刑責を負うか	461
5 13歳未満の者に対し、その反抗を著しく困難にさせる程度の脅迫を用いてわいせつ行為をした者の刑責	464
4 強姦罪	
〔事例〕 1 他人に成りすまして女性を脅迫した後、当該女性の畏怖状態に乗じて性交を迫り、姦淫した者の刑責	466
5 準強制わいせつ罪、準強姦罪	
〔事例〕 1 レントゲン検診を受ける女子大学生に対し、自己の	

性欲を満たす目的の下に、ブラジャーを外すように申し向けた上、その姿態をひそかにビデオ撮影したレントゲン技師の刑責	469
2 睡眠中の女性の太ももに向けて射精した者の刑責	472
3 本社社員を装い、飲食店の女性店員に電話をかけ、医師の診察と称してデジタルカメラ付き携帯電話機で同女に自らの裸体を撮影させた者の刑責	475
4 医学系大学受験専門の学習塾の塾長が、自己を医師と偽って診察行為を仮装し、女子生徒を裸にさせて乳房を弄ぶなどした場合の刑責	477
5 教会の主管牧師が、その立場を利用して信者である子供を姦淫した場合の刑責	480
6 スクールバス内において、精神年齢が3、4歳程度の17歳の女子の唇にキスした者の刑責	483
7 強姦の目的で向精神薬入りのコーヒーを飲ませて抗拒不能の状態に陥らせたが、その様子を見て犯行を断念した者の刑責	486
8 性交に応じた動機とその実現との間に錯誤が生じた場合における準強姦罪の成否	488
6 集団(準)強姦罪	
〔事例〕1 女性の共犯者が被害者の腕を押さえ付けている間に、他の共犯者が姦淫した場合の刑責	490
2 共犯二人が強姦の目的で共同して女性2名に脅迫を加えた後、各別に姦淫した場合の刑責	493
3 輪姦を共謀し、強姦犯人のため見張りをしたものの、専ら強姦犯人の暴行等のみで、当該強姦が未遂に終わった場合の集団強姦未遂罪の成否	495

7 (準)強制わいせつ致死傷罪、(準)強姦致死傷罪、集団(準)強姦致死傷罪	
〔事例〕1 強制わいせつに着手した犯人が、被害者に大声を出され抵抗されたことから、とっさに顔面を殴打し、傷害を負わせた場合の刑責	498
2 自己が性病に感染していることを知らずに強姦をした結果、相手方に性病を罹患させた場合における強姦致傷罪の成否	501
3 強姦犯人が犯行の際に被害女性の陰毛をカミソリで剃り落とした場合における強姦致傷罪の成否	503
4 準強制わいせつを断念した直後、逃走するため被害者に暴行を加えて傷害を負わせた場合における強制わいせつ致傷罪の成否	506
5 強姦犯人が殺意をもって、被害者を殺害した場合の刑責	508
8 重婚罪	
〔事例〕1 区役所に偽造した離婚届を提出した後、交際中の女性との婚姻届を勝手に提出した場合における重婚罪の成否	511

第17章 賭博及び富くじに関する罪

1 賭博罪

〔事例〕1 携帯電話機のウェブサイトを開示する情報会社の社長が、同社のサーバーコンピュータを使用して、同サイトに接続した客と金銭を賭けて「じゃんけん」を行った場合の刑責	515
--	-----

2 常習賭博罪、賭博場開張図利・博徒結合図利罪

〔事例〕 1 常習賭博罪が成立する期間内に賭博場開張図利罪に 当たる行為を行っていた場合の賭博場開張図利罪の成 否……………	517
2 不特定の客に、いわゆるオンラインカジノを提供し たゲーム店店長の刑責……………	520
3 自己名義で契約して雑居ビルの一室を賭博開張者に 賭場として提供した者の刑責……………	524
3 富くじ発売罪、同取次罪、同授受罪	
〔事例〕 1 氏子総代が景品付きおみくじを発売した場合におけ る富くじ発売罪の成否……………	526
2 海外から不特定多数の者に対し、ダイレクトメール を郵送して外国政府発行の宝くじの購買を勧誘し、購 買申込者に代わって当該宝くじを購入した者の刑責……………	528
第18章 礼拝所及び墳墓に関する罪	
1 礼拝所不敬罪、説教等妨害罪	
〔事例〕 1 深夜、誰もいない神社社殿の階段付近をふん尿等で 汚損した場合における礼拝所不敬罪の成否……………	531
2 告別式の席上、棺を棺台上から床に落とした者の刑 責……………	533
2 死体等損壊・遺棄・領得罪	
〔事例〕 1 簡易宿泊所で同室の者が死亡しているのを発見した ものの、その事実を誰にも申告せず立ち去った場合に おける死体遺棄罪の成否……………	535
2 父親が病死した事実を隠すために、同人の死体を自 宅のクローゼット内に隠して放置した息子の刑責……………	539
3 病死した父親の遺体を放置してその場所から立ち	

去った場合における死体遺棄罪の成否……………	541
4 人の形体を備えた死胎を寺院に宅配便で配送した場 合における死体遺棄罪の成否……………	544
5 他人の墓に遺骨を埋葬した者の刑責……………	546
6 嫌がらせ目的で、遺骨をマンションの宅配ボックス 内に放置した者の刑責……………	549
7 元同棲相手宅に安置されている遺骨を骨つぼごと持 ち去った者の刑責……………	551
8 殺人犯人が、自宅で被害者の死体の頸部・腹部・両 腕部を切断して、後日別々の場所に遺棄した場合にお ける死体損壊等罪の罪数関係……………	553
9 病死した実子の死体を、哀惜の情から自宅押し入れ 内に隠匿し、更に当該死体を転居先に運び込んだ後に ごみ集積所に投棄した実母の刑責……………	555
3 墳墓発掘死体等損壊・遺棄・領得罪	
〔事例〕 1 墓に埋葬されている遺骨を骨つぼごと盗み出した 上、その遺族に対して、返還名下に金員を要求した者 の刑責……………	559

請求対象外

実務 (37) 刑法各論 (上)

平成26年3月5日 印刷発行

東京都千代田区霞が関2-1-1

編集者 警視庁刑事部刑事総務課
発行者

電話 (03) 3581-4321

(内線 ■■■)

印刷所 ■■■■■